



“地域のことは地域で考えよう”

2017年3月29日

おきぎん県内景況・速報 2017年2月

一県内景況は、拡大している一

■個人消費

スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を下回る。
百貨店売上高は前年同月を上回る。
家電卸出荷額は前年同月を下回り、新車販売台数は上回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。
生コンは前年同月を下回り、セメントは上回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も下回る。
ホテル稼働率は、リゾートホテル、ビジネスホテルが前年同月を上回り、シティホテルは下回る。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回る。

■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2017年2月分)

◎2017年2月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

2月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を下回りました。百貨店売上高は「食料品」や「雑貨」などの売れ行きが堅調で、前年同月を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、冷蔵庫や洗濯機の需要減少などから前年同月を下回りました。新車販売台数はレンタカー需要の増加などから前年同月を上回りました。

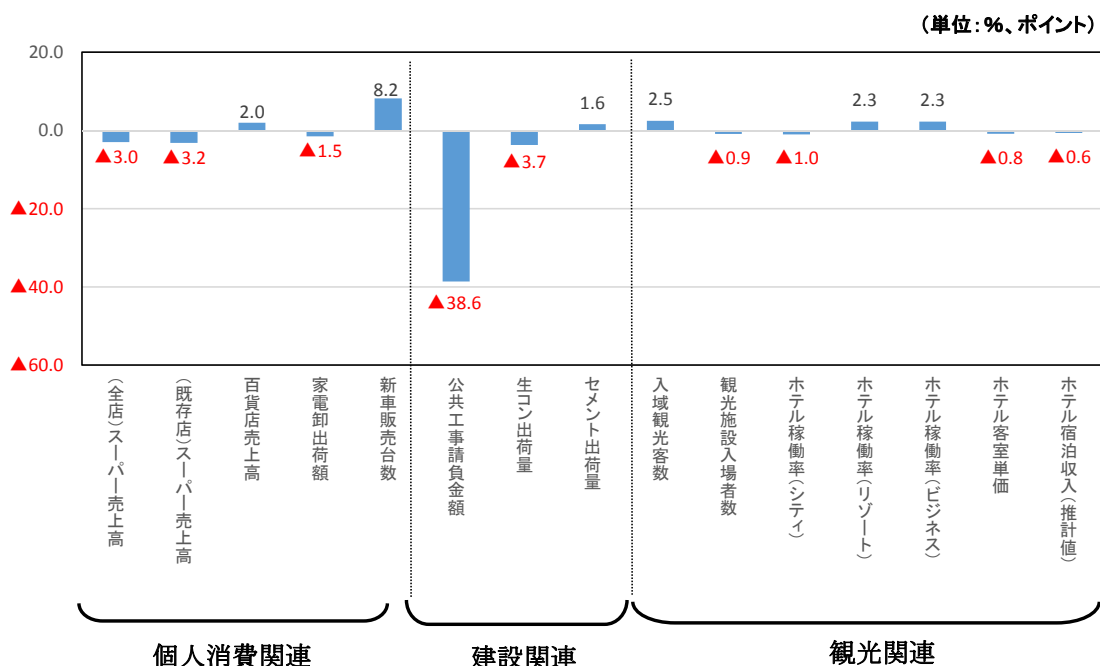
建設関連では、公共工事請負金額は、前年あった国や沖縄県発注による大型工事の反動などで前年同月を下回りました。建設資材である生コン前年同月を下回り、セメントは上回りました。

観光関連では、入域観光客数は53ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数は前年同月を下回りました。ホテル稼働率はリゾートホテル、ビジネスホテルが前年同月を上回り、シティホテルは下回りました。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から37ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比



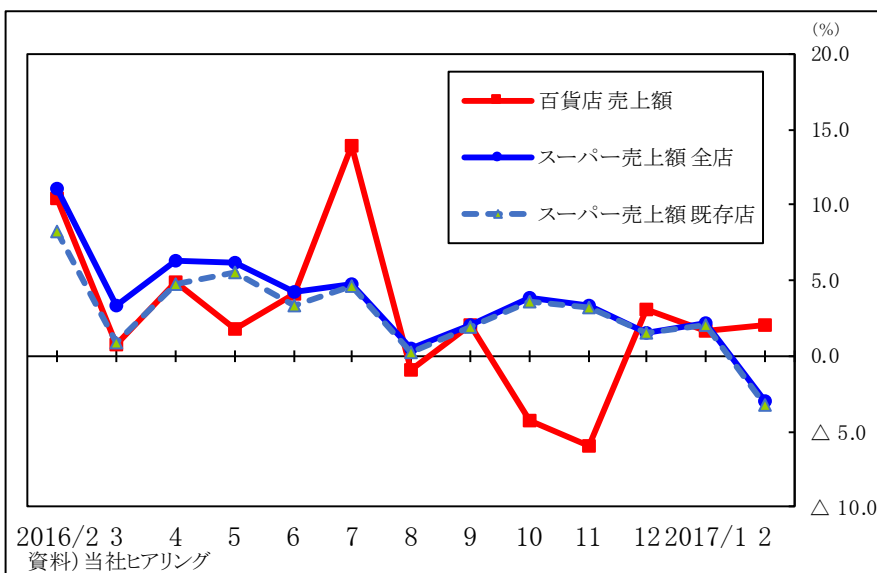


■個人消費： (やや良い)

①スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を下回る。百貨店売上高は前年同月を上回る。

単位：%

	スーパー売上額		百貨店
	全店	既存店	売上額
2016/2	11.1	8.3	10.5
3	3.3	0.9	0.7
4	6.3	4.8	4.9
5	6.2	5.5	1.8
6	4.2	3.3	4.1
7	4.8	4.6	13.9
8	0.5	0.2	△ 0.9
9	2.1	1.9	2.0
10	3.8	3.6	△ 4.3
11	3.4	3.2	△ 5.9
12	1.6	1.5	3.1
2017/1	2.2	2.0	1.7
2	△ 3.0	△ 3.2	2.0

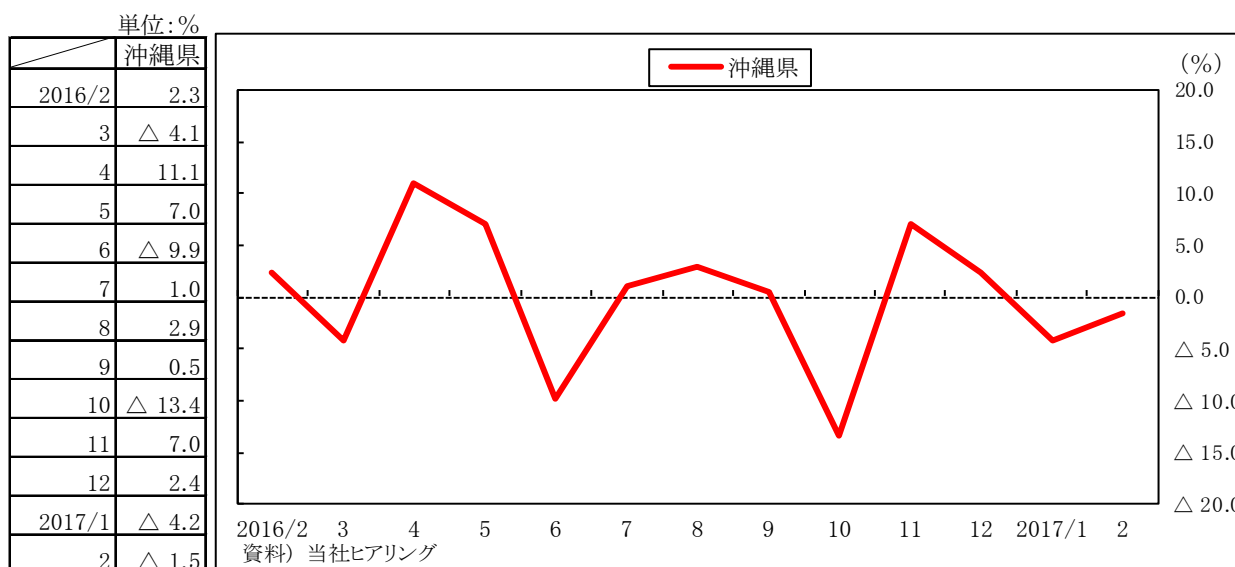


注) 前年同月比

2月の個人消費関連では、スーパー売上高は「全店ベース(前年同月比 3.0%減)」が23ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。継続的な新規出店効果がみられたものの、前年が閏年で伸びた反動や土曜日が1日少なかったことなどから、ウエイトの高い「食料品(同 3.8%減)」などの売れ行きが伸び悩み、前年同月を下回りました。「既存店ベース(同 3.2%減)」では、一部店舗の改装休業による売上減少なども加わり、23ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。品目別では、ウエイトの高い「食料品(同 4.1%減)」は、生鮮全般(精肉・水産・青果)や惣菜の売れ行きが堅調だったものの、営業日減少などの影響から前年同月を下回りました。一方で、家電を含む「家庭用品(同 0.5%増)」は、白物家電(洗濯機、冷蔵庫、エアコン)やテレビなどでは総じて前年に伸びた反動がみられたものの、インバウンド(訪日観光客)による雑貨(化粧品、小物類)需要が堅調だったことなどから前年同月を上回ったほか、「衣料品(同 1.1%増)」も前年同月を上回りました。

百貨店売上高は、前年が閏年で伸びた反動や土曜日が1日少ない状況であったものの、新規催事開催による集客効果などから「食料品」や「雑貨」などの売れ行きが堅調となり、3ヵ月連続で前年同月を上回りました(同 2.0%増)。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品(同 10.1%減)」は、割引企画などの販促強化に取り組んだものの、主力商品である「婦人服(同 10.6%減)」や「紳士服(同 3.6%減)」などで前年に伸びた反動がみられたほか、春物新作や冬物最終処分などの需要が喚起できなかったことなどから、前年同月を下回りました。一方で、「食料品(同 15.3%増)」は、生鮮(精肉、水産、青果)や惣菜などの売れ行きが堅調だったほか、新規物産展の開催効果なども加わり、前年同月を上回りました。また、「雑貨(同 2.7%増)」や「身の回り品(同 3.9%増)」は、継続的なインバウンド需要がみられたことなどから前年同月を上回りました。

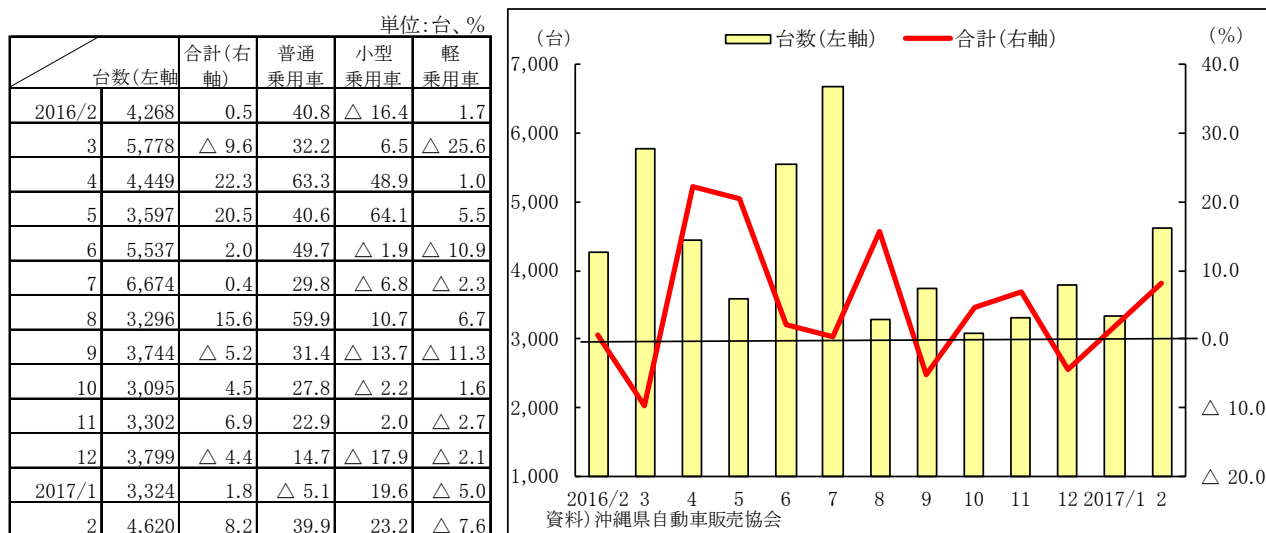
②家電卸出荷額…冷蔵庫や洗濯機の需要減少などから前年同月を下回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、冷蔵庫や洗濯機の需要減少などから2ヵ月連続で前年同月を下回りました(同1.5%減)。品目別では、「エアコン(同32.2%増)」や「テレビ(同2.6%増)」は新型商品効果に旧型処分などの販促効果が加わったことなどから、「太陽光パネル(同10.1%増)」は個人住宅向けの需要増加などから、それぞれ前年同月を上回りました。一方で、「冷蔵庫(同24.2%減)」や「洗濯機(同12.0%減)」は、前年に大きく伸びた反動(参考:冷蔵庫+68.4%、洗濯機+44.3%)などから前年同月を下回りました。

③新車販売台数…レンタカー需要(普通・小型乗用車)の増加などから前年同月を上回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

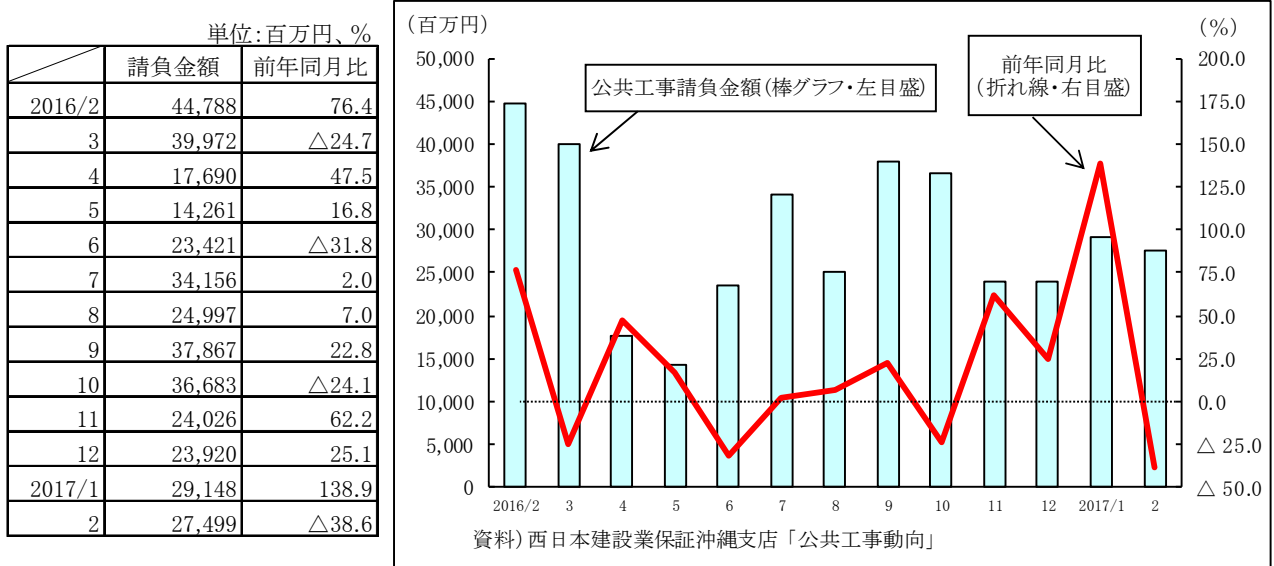
新車販売台数は、全体で4,620台(同8.2%増)となり、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。車種別ではレンタカー需要の増加などから「普通乗用車(同39.9%増)」は2ヵ月ぶり、「小型乗用車(同23.2%増)」は前年に落ち込んだ反動も加わり2ヵ月連続で、それぞれ前年同月を上回りました。一方で、「軽乗用車(同7.6%減)」は、継続的な軽自動車税増税の影響などから4ヵ月連続で前年同月を下回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。



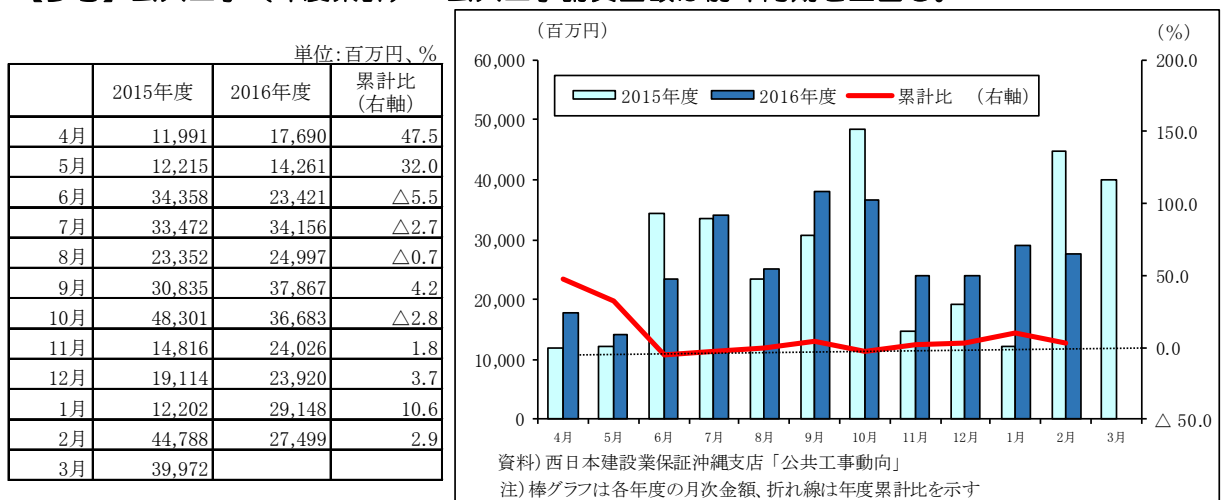
■ 建設関連: (やや良い)

①公共工事…公共工事請負金額は前年同月を下回る。



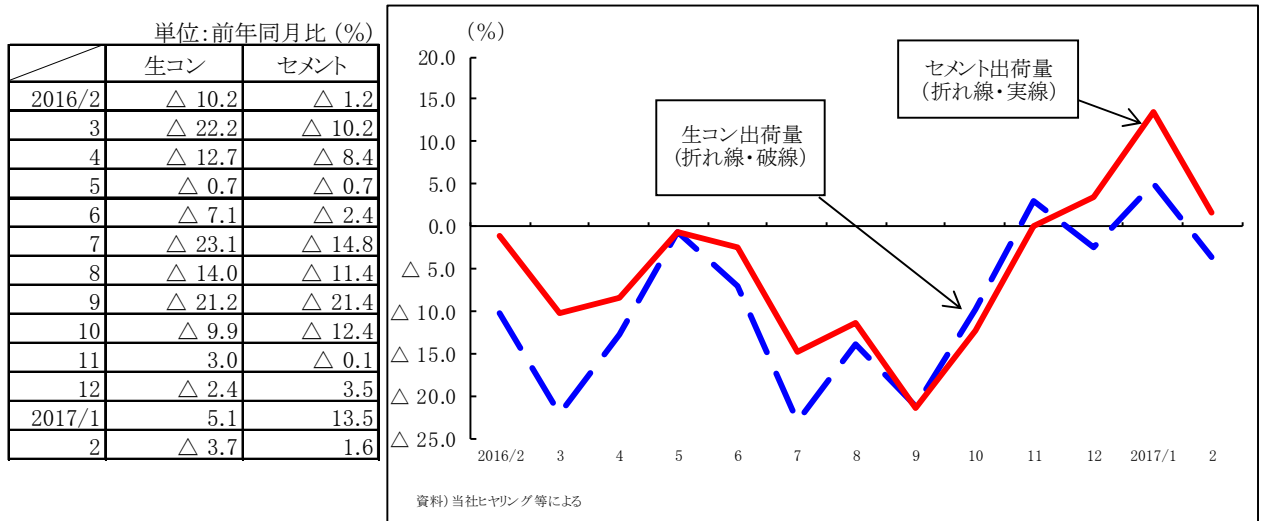
2月の公共工事請負金額は、前年同月比38.6%減の274億9,900万円となりました(4ヵ月ぶり減)。発注者別でみると、「その他の公共的団体(同156.3%増)」は、那覇空港連結ターミナル施設建設に係る大型工事などで前年同月を上回りました。一方で、「国(同55.9%減)」は前年あった那覇空港滑走路増設埋立工事、「沖縄県(同51.9%減)」は前年あった新県立八重山病院建設工事、「市町村(同1.7%減)」は前年あった名護市でのダム建設工事などの大型工事の反動、「独立行政法人等」も下回りました。

【参考】公共工事(年度累計)…公共工事請負金額は前年同期を上回る。



今年度4月～翌年2月までの累計を前年度同期と比較すると、2.9%増となっています。(上記折れ線グラフ)

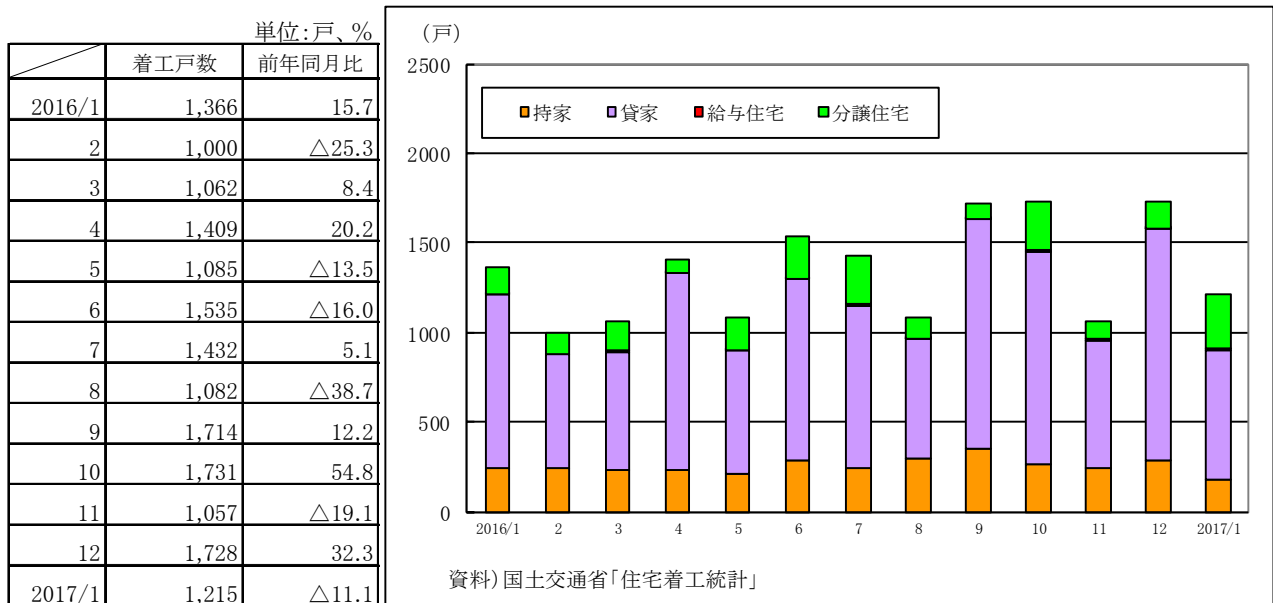
②建設資材…生コンは前年同月を下回り、セメントは上回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、生コンの出荷量は3.7%減と2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より22.1%下回ったものの、民間工事向け出荷が11.3%上回りました。セメント出荷量は1.6%増と3ヵ月連続で前年同月を上回りました。

【参考】住宅投資(1月)…着工戸数は前年同月を下回る。

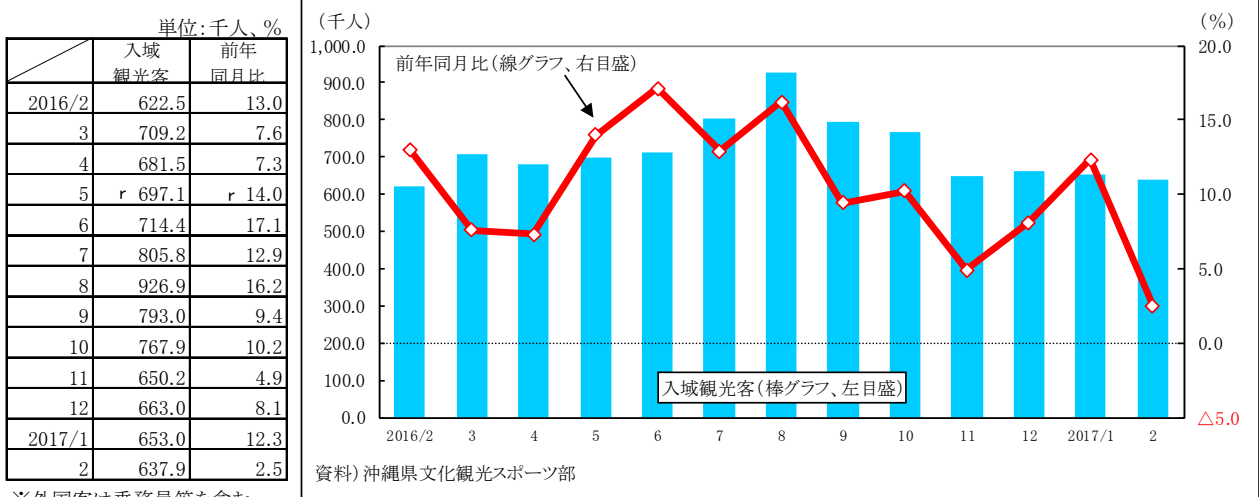


新設住宅着工戸数(1月)は、全体で前年同月比11.1%減の1,215戸と2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家(同25.1%減)」や「持家(同25.1%減)」は前年同月を下回った一方で、「給与住宅(同100.0%増)」や「分譲住宅(同95.6%増)」は上回りました。



■観光関連： (良い)

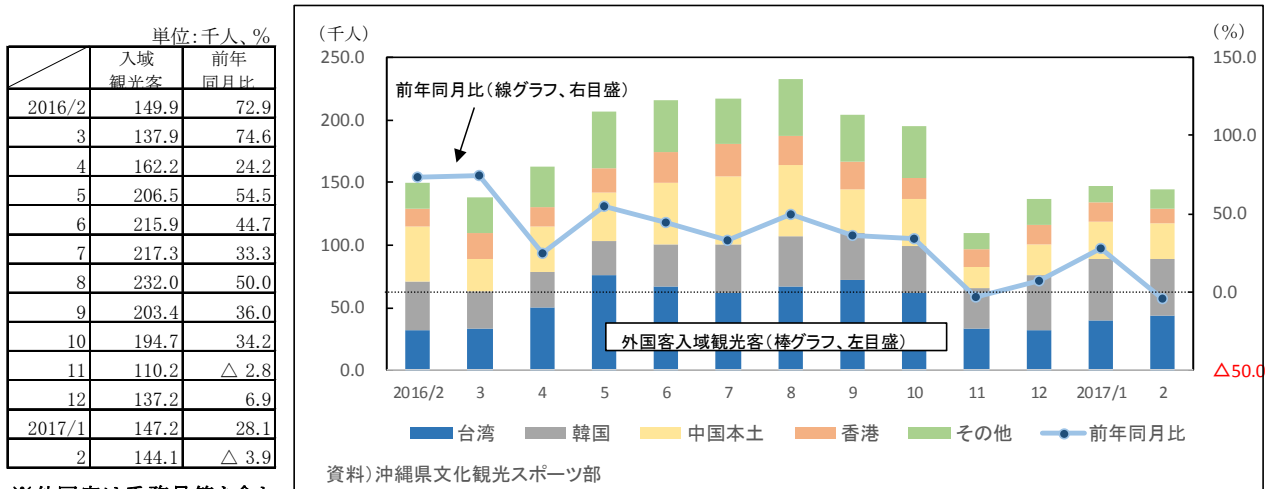
①入域観光客数 (国内客・外国客の合計) …53ヵ月連続で前年同月を上回る。



※外国客は乗務員等を含む

※上記 2016 年 5 月の数値については、沖縄県よりホームページにて数値訂正の公表(2016 年 8 月 19 日付)があったことから遡って修正した。

外国客 入域観光客数…3ヵ月ぶりに前年同月を下回る。



※外国客は乗務員等を含む

2月の入域観光客数は、15,400人多い637,900人(前年同月比2.5%増)となり、53ヵ月連続で前年同月を上回りました(2月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同4.5%増)」は493,800人と、スポーツキャンプ見学や桜祭り等のイベント効果などにより、個人旅行を中心に需要が好調に推移したほか、離島路線等においても入込が好調だった事などから、11ヵ月連続で前年同月を上回りました。

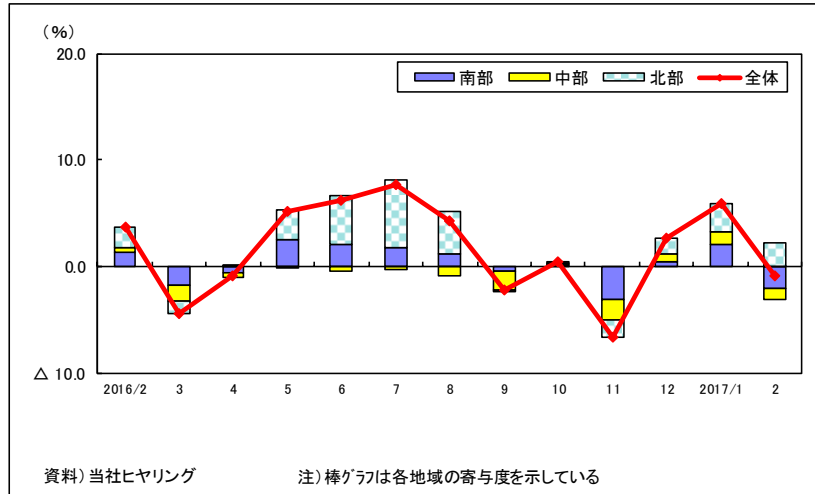
他方、「外国客(同3.9%減)」は、144,100人と3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。航空路線の拡充等により台湾、韓国、タイを中心に空路客が増加したものの、昨年2月にあった春節(旧正月)時期の旅行需要が今年は1月に前倒しとなったことや、クルーズ船の寄港回数減少などにより前年同月を下回りました。

「台湾(同37.1%増)」「韓国(同14.8%増)」「中国本土(同32.8%減)」「香港(同20.7%減)」

※乗務員等を除く2017年2月実績=全体628,700人(同3.7%増)、外国客134,900人(同0.8%増)、国内客は変わらない。

②観光施設入場者数…3ヵ月ぶりに前年同月を下回る。

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2016/2	3.7	3.3	3.5	4.0
3	△ 4.4	△ 4.6	△ 11.4	△ 2.2
4	△ 0.9	△ 1.5	△ 3.0	0.3
5	5.2	6.5	△ 0.8	5.7
6	6.2	5.2	△ 3.6	9.2
7	7.7	5.1	△ 3.1	11.8
8	4.3	3.5	△ 6.9	7.3
9	△ 2.3	△ 1.3	△ 15.0	△ 0.1
10	0.4	0.3	0.9	0.4
11	△ 6.7	△ 7.4	△ 14.2	△ 3.7
12	2.7	1.1	5.0	3.5
2017/1	5.9	5.4	8.9	5.5
2	△ 0.9	△ 5.6	△ 7.6	4.3

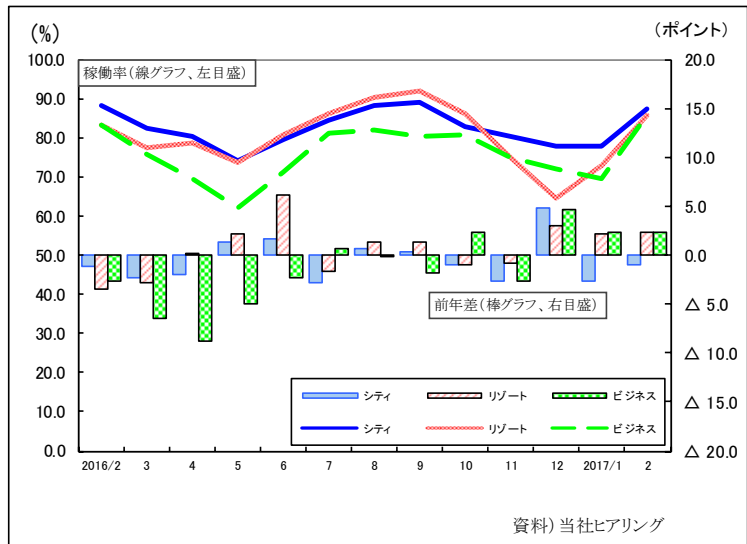


※調査対象施設数＝南部6、中部6、北部5施設
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より0.9%減少(3ヵ月ぶり)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同5.6%減と3ヵ月ぶり、中部は同7.6%減と3ヵ月ぶりに前年同月を下回り、北部は同4.3%増と3ヵ月連続で前年同月を上回りました。

③ホテル稼働率…リゾートホテル、ビジネスホテルは前年同月を上回り、シティホテルは下回る。

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2016/2	88.3	83.3	83.4	△ 1.2	△ 3.5	△ 2.7
3	82.3	77.3	75.9	△ 2.3	△ 2.8	△ 6.5
4	80.1	78.6	69.3	△ 2.0	0.2	△ 8.8
5	74.2	73.5	62.2	1.3	2.1	△ 4.9
6	79.6	80.7	71.3	1.6	6.2	△ 2.3
7	84.4	86.2	81.3	△ 2.8	△ 1.7	0.7
8	88.1	90.4	82.0	0.6	1.4	△ 0.2
9	89.2	92.1	80.4	0.3	1.4	△ 1.8
10	82.9	86.2	80.9	△ 1.0	△ 1.0	2.3
11	80.2	75.1	75.0	△ 2.7	△ 0.9	△ 2.6
12	77.6	64.4	72.0	4.8	3.0	4.6
2017/1	77.9	73.0	69.6	△ 2.6	2.1	2.3
2	87.3	85.6	85.7	△ 1.0	2.3	2.3



注) シティ9ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル

注) 2015年10月より、シティホテル対象施設数が変更(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

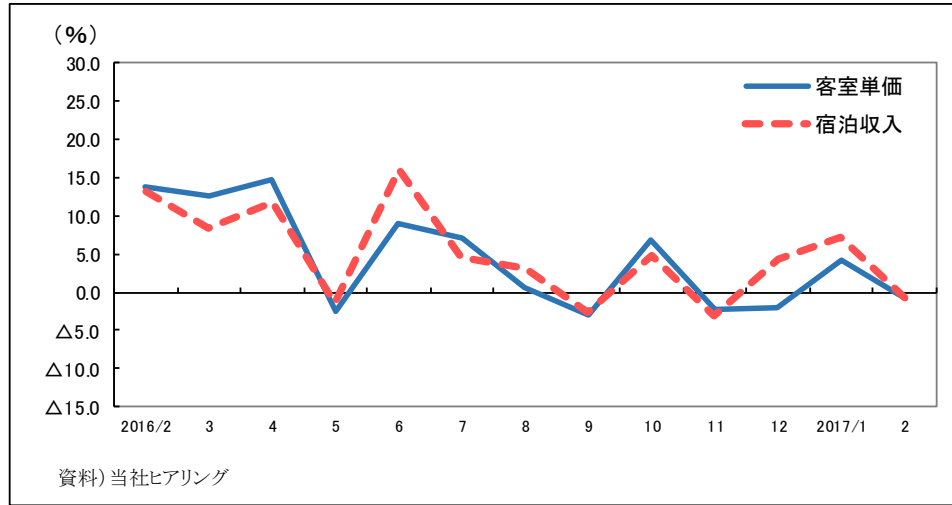
注) 2016年4月より、リゾートホテル対象施設数が変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが87.3%と1.0ポイント減少(2ヵ月連続)、リゾートホテルが85.6%と2.3ポイント上昇(3ヵ月連続)、ビジネスホテルが85.7%と2.3ポイント上昇(3ヵ月連続)しました。

④ホテル客室単価・宿泊収入…客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入も下回る。

単位:%		
	客室単価	宿泊収入
2016/2	13.7	13.2
3	12.7	8.5
4	14.7	11.8
5	△2.4	△1.5
6	9.1	16.1
7	7.2	4.6
8	0.7	3.1
9	△2.9	△2.5
10	6.8	4.9
11	△2.2	△3.0
12	△1.9	4.3
2017/1	r 4.2	7.1
2	△0.8	△0.6



※対象施設数:27施設(シティ9、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は27施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2015年10月より、シティホテル対象施設数が変更(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

※2016年4月より、リゾートホテル対象施設数が変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 0.8%減と前年同月を下回りました。**宿泊収入**も同0.6%減と前年同月を下回りました。

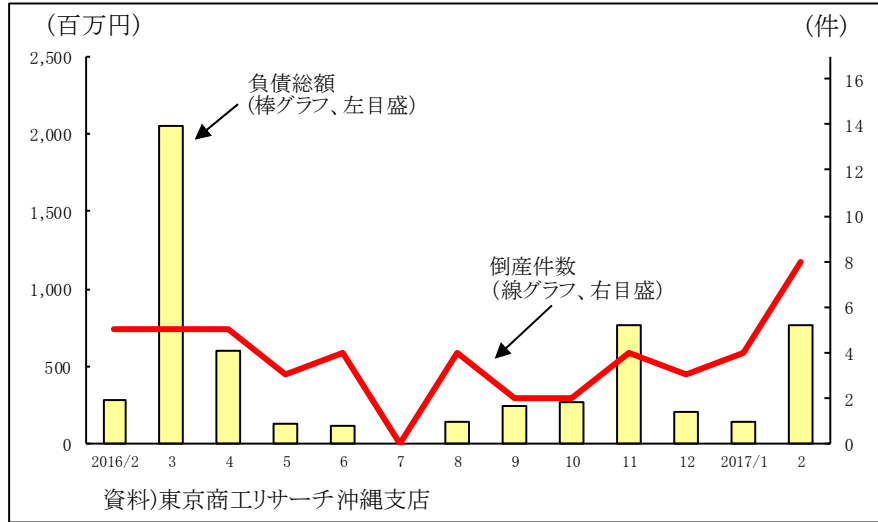


■企業倒産: (やや良い)

企業倒産…件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

単位: 百万円、件

	負債総額	倒産件数
2016/2	282	5
3	2,050	5
4	596	5
5	122	3
6	110	4
7	0	0
8	143	4
9	240	2
10	270	2
11	770	4
12	200	3
2017/1	141	4
2	760	8



2月の**企業倒産件数**は、8件(うち大型倒産はなし、大口倒産は3件)となり、前年同月より3件増加(同60.0%増)しました。**負債総額**は7億6,000万円となり、前年同月より169.5%増加しました。

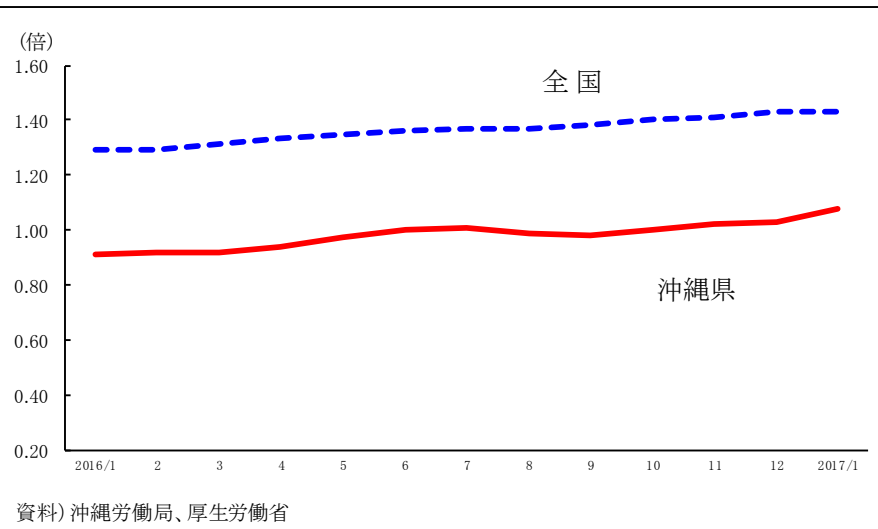


【参考】雇用関連: (良い)

(参考) 有効求人倍率(1月)…沖縄は前月より上昇、全国は同水準。

単位: 倍

	沖縄県	全国
2016/1	0.91	1.29
2	0.92	1.29
3	0.92	1.31
4	0.94	1.33
5	0.97	1.35
6	1.00	1.36
7	1.01	1.37
8	0.99	1.37
9	0.98	1.38
10	1.00	1.40
11	1.02	1.41
12	1.03	1.43
2017/1	1.08	1.43



注) 季節調整済

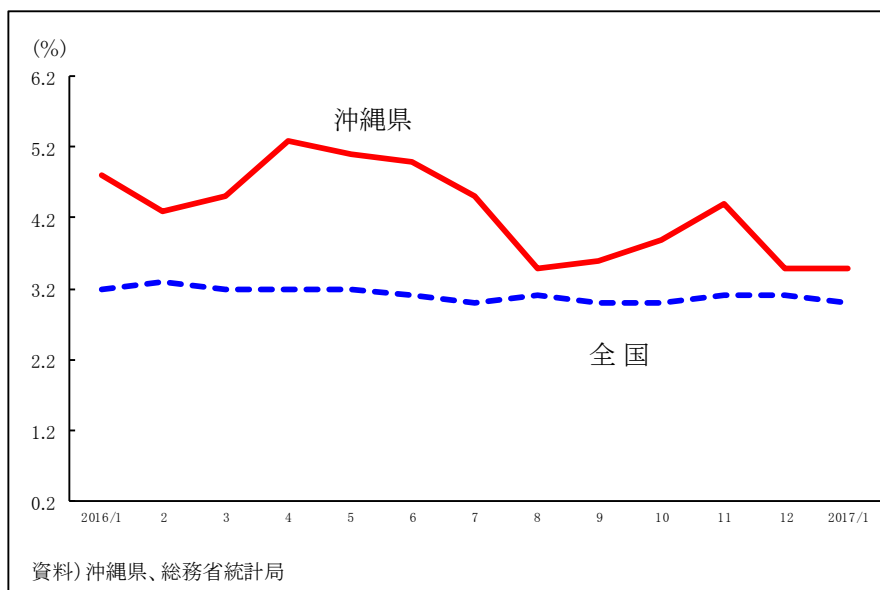
注) 季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による

1月の**雇用状況**は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比6.1%増の28,684人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比0.9%増の26,528人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.08倍となり前月より0.05ポイント上昇しました。

(参考) 完全失業率(1月)…沖縄は前月と同水準、全国は低下。

	単位:倍	
	沖縄県	全国
2016/1	4.8	3.2
2	4.3	3.3
3	4.5	3.2
4	5.3	3.2
5	5.1	3.2
6	5.0	3.1
7	4.5	3.0
8	3.5	3.1
9	3.6	3.0
10	3.9	3.0
11	4.4	3.1
12	3.5	3.1
2017/1	3.5	3.0

注) 季節調整済



1月の完全失業率(季節調整値)は、3.5%となり前月と同水準となりました。